

科目名	地域養生看護学(在宅援助)			ナンバリング	INE141	授業形態	演習
対象学年	2 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	スーディ神崎和代	担当教員					

授業の概要	在宅療養者の日常生活援助の基本となる、自立支援に対する考え方や対象者との人間関係構築スキルを学修する。 社会的な背景に基づく医療依存度の高い在宅療養者の看護援助技術や、訪問看護ステーションなどの社会資源の活用方法について実践的に学ぶ。 また、在宅の看護過程展開について、ICF(国際生活機能分類)の概念を用いて、対象者のニーズと、持てる力・強みを反映させたアセスメントの方法と目標設定・計画立案の考え方とスキルを身につけることを学修する。 被災地域における長期的な在宅看護ニーズに対応する際のメディカルスタッフの役割と看護職との連携についても学修する。						
到達目標	1. 在宅療養者の自立支援に対する考え方や対象者との人間関係スキル、療養環境の調整について説明できる。／ 2. 在宅療養者の特徴的疾患とその家族・介護者に対する訪問看護の方法について理解できる。／ 3. 在宅療養者の日常生活援助技術(陰部洗浄・おむつ交換・体位変換)を体験的に理解できる。／ 4. 在宅療養者の医療管理技術(経管栄養法)を体験的に理解できる。／ 5. ICF(国際生活機能分類)の概念を理解し、在宅看護の看護過程が展開できる。／ 6. 在宅療養生活における環境調整や安全管理、法制度の活用、職種間連携について理解できる。／ 7. 被災地における在宅看護のニーズと看護職の役割、連携について説明できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	在宅療養者の特徴的な疾患は、既習学修を事前に復習した上で講義に臨むこと。 また、看護過程や技術演習では、グループ内の協力体制が重要なため、十分にコミュニケーションを図り、情報の共有を密にすること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
		2. EBN(Evidence Based Nursing:根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	○	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
	○	4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
		5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 技術演習に興味・関心をもって取り組む。 2. 与えられた課題を期限までに提出する。 3. 定期試験で60～70%の正答率を得る。 4. リアクションペーパーに記載して提出する。	1. 技術演習に興味・関心をもち、技術必修得に対して積極的な姿勢がみられる。 2. 与えられた課題に積極的に取り組み、課題内容の質を高めようとしている状況が認められる。 3. 定期試験で80%以上の正答率を得る。 4. リアクションペーパーに、気づきや自身の学びの課題など建設的な内容が記載されている。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○						60%
小テスト・授業内レポート	○	○					30%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			○	○	○		10%
							3分の1以上の欠席は 欠格となる

課題、評価のフィードバック	講義・演習の終わりにリアクションペーパーをmanabaへ提出してもらい、講義や演習の中で適宜フィードバックする。また、看護過程の演習記録もmanabaまたは指定のメールボックスへ提出し適宜フィードバックする。
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	ガイダンス 在宅看護の対象理解	学習目的・内容・方法、30回の講義・演習の全体構成。在宅看護の対象となる療養者及びその家族・地域のコミュニティ。在宅療養者の自立支援に対する考え方。	
	第2回	在宅看護とICF	ICF(国際生活機能分類)の概念。 在宅で生活する療養者とその家族をとらえる視点。	
	第3回	在宅療養者と家族への援助(1)	リハビリテーションを必要とする在宅療養者の特徴。 家族機能評価を含むアセスメントの実際と訪問看護の方法。	
	第4回	在宅療養者と家族への援助(2)	慢性疾患をもつ在宅療養者の特徴。 家族機能評価を含むアセスメントの実際と訪問看護の方法。	
	第5回	在宅療養者と家族への援助(3)	難病をもつ在宅療養者の特徴。 家族機能評価を含むアセスメントの実際と訪問看護の方法。	
	第6回	在宅療養者と家族への援助(4)	精神障がいをもつ在宅療養者の特徴。 家族機能評価を含むアセスメントの実際と訪問の方法。	
	第7回	在宅療養者と家族への援助(5)	認知症もつ在宅療養者の特徴。 家族機能評価を含むアセスメントの実際と訪問看護の方法。	
	第8回	在宅療養者と家族への援助(6)	認知症もつ在宅療養者の特徴。 家族機能評価を含むアセスメントの実際と訪問看護の方法。	
	第9回	在宅療養者と家族への援助(7)	在宅がん療養者/ターミナル期にある在宅療養者の特徴。 家族機能評価を含むアセスメントの実際と訪問看護の方法。	
	第10回	在宅療養者と家族への援助(8)	在宅で療養する小児の特徴。 家族機能評価を含むアセスメントの実際と訪問看護の方法。	
	第11回	在宅における環境調整技術と安全管理	在宅改修や福祉用具の活用などの物理的環境や社会的環境・人的環境のアセスメントの視点と療養環境の調整方法。在宅における安全管理や感染予防対策。	
	第12回	在宅看護の基本技術:基本的態度と面接技術	訪問看護における看護職としての基本的な態度・姿勢、マナー、コミュニケーションスキルなど。	
	第13回	在宅看護の基本技術:事例検討(1)	要介護度の高い複合的な健康上課題を持つ在宅療養者の事例を用いてICFの概念(枠組み)を基に看護過程を展開し、対象を多角的にとらえ、看護上の課題を明らかにする。	看護過程演習
	第14回	在宅看護の基本技術:事例検討(2)	要介護度の高い複合的な健康上課題を持つ在宅療養者の事例を用いてICFの概念(枠組み)を基に看護過程を展開し、対象を多角的にとらえ、看護上の課題を明らかにする。	看護過程演習
	第15回	在宅看護の基本技術:事例検討(3)	要介護度の高い複合的な健康上課題を持つ在宅療養者の事例を用いてICFの概念(枠組み)を基に看護過程を展開し、対象を多角的にとらえ、看護上の課題を明らかにする。	看護過程演習
	試験	中間試験は実施しない。		

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	在宅看護の基本技術:事例検討(4)	要介護度の高い複合的な健康上課題を持つ在宅療養者の事例を用いてICFの概念(枠組み)を基に看護過程を展開し、対象を多角的にとらえ、看護上の課題を明らかにする。	看護過程演習
	第17回	在宅看護の基本技術:事例検討(5)	要介護度の高い複合的な健康上課題を持つ在宅療養者の事例を用いてICFの概念(枠組み)を基に看護過程を展開し、対象を多角的にとらえ、看護上の課題を明らかにする。	看護過程演習
	第18回	日常生活援助技術と医療管理技術(1)	在宅における排泄・清潔援助のアセスメントのポイントと援助技術。在宅における膀胱留置カテーテルの管理。	看護過程演習
	第19回	在宅援助技術演習①	陰部洗浄・おむつ交換・体位変換の援助技術の演習。	在宅看護技術演習
	第20回	日常生活援助技術と医療管理技術(2)	看護過程演習	
	第21回	在宅援助技術演習②	在宅における経管栄養法の援助・管理技術の演習。	在宅看護技術演習
	第22回	日常生活援助技術と医療管理技術(3)	在宅における呼吸ケア(人工呼吸器・在宅酸素療法)の援助・管理技術。 在宅における服薬管理、褥瘡管理の援助・管理技術。	
	第23回	多職種連携と制度の活用及び看護師の役割	在宅療養生活を支えるための関係機関や職種・関連制度の活用と、その中における看護師の役割。	
	第24回	在宅看護の基本技術:事例検討(6)	要介護度の高い複合的な健康上課題を持つ在宅療養者の事例を用いてICFの概念(枠組み)を基に看護過程を展開し、対象を多角的にとらえ、看護上の課題を明らかにする。	看護過程演習
	第25回	在宅看護の基本技術:事例検討(7)	要介護度の高い複合的な健康上課題を持つ在宅療養者の事例を用いてICFの概念(枠組み)を基に看護過程を展開し、対象を多角的にとらえ、看護上の課題を明らかにする。	看護過程演習
	第26回	在宅看護の基本技術:事例検討(8)	要介護度の高い複合的な健康上課題を持つ在宅療養者の事例を用いてICFの概念(枠組み)を基に看護過程を展開し、対象を多角的にとらえ、看護上の課題を明らかにする。	看護過程演習
	第27回	被災地域における援助	被災地における長期的な在宅看護のニーズに対応する際の、メディカルスタッフの役割と看護職との連携や、長期的な在宅療養者の身体とこころケアについて理解できる。	
	第28回	在宅看護の基本技術:事例検討(9)	事例における看護上の課題について訪問看護計画を立案し、訪問看護の在り方について具体的に説明することができる。	看護過程演習(発表会)
	第29回	在宅看護の基本技術:事例検討(10)	事例における看護上の課題について訪問看護計画を立案し、訪問看護の在り方について具体的に説明することができる。	看護過程演習(発表会)
	第30回	総括(全体のまとめ)	講義・演習を通して学んだ「在宅療養者の自立支援」の具体的な看護のあり方の理解。	
	試験	期末試験を実施する。		
授業の進め方		第1回～12回は座学による講義形式中心で進める。第13回～17回、24回～26回はグループワークによる看護過程の演習を行い、28回と29回の2コマで看護過程の成果をパワーポイントを用いてグループごとに発表し相互に評価する。また、第19回・21回は実習室を使い、在宅看護技術演習を行う。		
授業外学習の指示		予習(資料の閲覧)と復習(レポート作成)を必ず行うこと。予習と復習それぞれおよそ90分の学習時間を確保すること。 (授業外学習時間: 毎週 180 分)		

教科書	スーディ神崎和代編:在宅看護学講座 ナカニシヤ出版(2015)ISBN978-4-7795-0710-6 2800円 櫻井尚子編 ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版
参考書	正野逸子、本田彰子編著 在宅看護過程 メヂカルフレンド社
参考URLなど	なし
その他	なし